

広島県の新型コロナウイルス感染症の状況にかかる評価と提言

【感染状況】

- 県全体及び広島市内の新規報告数（直近1週間の10万対）は、ともに1月中旬の高止まりの状況から現在は減少傾向となっている。12月以降取り組んできた、集中対策における各種対策の効果が現れているものと考えられる。
- 一方、広島市内の新規報告数は7.4人と、急拡大が始まった12月初旬の数値と同じレベルであり、依然として警戒基準値をオーバーした状態が続いている。また、減少のペースは、やや緩徐となっている。
- 広島市内のPCR検査の陽性率、感染経路不明割合についても、一時期より低下しているが、市中感染のリスクは継続していると考えられる。
- 全国の感染状況は、緊急事態宣言が出されて以降、徐々に改善傾向が認められるものの、感染拡大地域における感染状況は高止まりしており、気候条件も鑑みて、感染の再拡大に繋がるリスクが依然存在するため、基本的な感染防止対策の徹底の継続（※）をしていくことが必要である。

※「マスクの着用」「こまめな手洗い（手指消毒）」「3密（密閉、密集、密接）回避」の徹底を県民一人ひとりに呼びかける。＝行動変容で感染は防げる。

【医療提供体制】

- 新型コロナウイルスに対応可能な病床の確保は徐々に進み、感染の拡大状況も落ちつきつつある現状において、病床のひっ迫具合は改善している。
- 感染拡大の状況ではないこの時期を捉えて、医療提供体制を見直し、対応医療機関への要請、後方支援病院の拡充等による、体制の再整備を行うため、関係者による意見交換等を通じて、共通認識の醸成を図ることが必要である。
- 併せて、救急搬送体制、自宅療養者の健康管理体制についても、実態を把握し、万全を期すよう取り組むこと。

【医療機関や高齢者施設等におけるクラスター】

- 医療施設・介護施設等においては、依然としてクラスターが発生しており、発生した場合には長期化・拡大する傾向が見受けられる。引き続き施設内の感染防止対

策と早めに探知し抑え込む対策を徹底する必要がある。

- 第二次集中対策として医療調整本部に立ち上げられた「医療・福祉クラスター対応班」の取組を拡げ、県内の二次医療圏ごとに完結する仕組みとすることが望ましい。
- 一方、直近の感染状況では、20代の割合が増えていることから、卒業シーズンに向けて、学生等若年層由来のクラスターにも注意が必要である。

【ステージ判断について】

- 県全体としてのステージについては、前回と同様、ステージⅡとする。
- 広島市についても、新規報告数が減少していることなどから、これまでのステージⅣから改善しステージⅡ相当の水準にある。

【第三次集中対策について】

- 感染者数は減少傾向にあるが、未だ警戒基準値をオーバーした状態にある。第三次集中対策においては、緊急事態宣言対象都府県レベルよりも、要請等の内容を緩和することは考慮されるものの、一気に緩めるのではなく、段階的に緩和しながら一定期間継続することが望ましい。特に、新規報告数の発生状況や医療体制のひっ迫具合等の推移を注視しながら、感染の再拡大の兆しが認められた場合には、速やかに対策を再度強化することが必要である。
- また、感染状況の改善や、対策の緩和による気の緩み、これまでのコロナ対策による慣れなどに伴う影響をできるだけ最小限に留めることが必要である。このため、人出の削減対策、職場への対策に係る数値目標について、改めて企業への周知を徹底し、人と人との接触の機会を減らすことは継続的かつ着実に進めるべきと考える。

【変異株への対応について】

- 新たな報告が相次いでいる変異株については、今後の感染状況に大きな影響を及ぼす可能性があることから、県、市、大学、民間検査機関が協力し、検出可能な体制を早急に整えることが望ましい。